

漁業資源・漁場調査と情報提供

原田慈雄・中地良樹・堀木暢人・小林慧一・武田保幸（資源海洋部）

1 目的

和歌山県周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

2 方法

主な調査市場（図1）で、生物情報収集調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ）および資源動向調査（ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）を月1回、沿岸定線24定点と浅海定線21定点において実施した（図1）。4、5月にはモジャコ調査を実施した。

3 結果及び考察

生物情報収集調査および資源動向調査の一部を図2に示す。紀伊水道内標本2市場の船びき網によるシラスの漁獲量は、ピークであった5月を除いて平年を下回った。2そうまき網によるサバ類漁獲量は、平年を大きく下回った。2そうまき網によるマアジ漁獲量は6月が最も多く、6、10月以外は平年を下回った。2そうまき網によるマルアジ漁獲量は、例年最大ピークとなる産卵期の5、6月には平年を大きく下回ったが、秋季ピークの11月は平年を大きく上回った。紀伊水道内標本1市場の一本釣りによるマダイの漁獲量は、平年を大きく下回った。紀伊水道外域標本1市場の棒受網によるウルメイワシ漁獲量は、平年よりも少なくピークは6月であった。また、海洋観測表およびモジャコ調査速報として公表した資料を添付した。海洋観測調査（卵稚仔調査を含む）等の結果については、独立行政法人水産総合研究センター、各都道府県水産試験場および社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベース化を行った。生物情報収集調査のうち主要魚種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ）について、その「資源評価表」が、水産庁および（独）水産総合研究センターにより策定、公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やイワシ類産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供した。ムロアジ類、タチウオ、イサキおよびハモについては、資源動向をとりまとめ、（独）水産総合研究センターに報告した。「第45回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「平成26年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議」、および「平成26年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会」において、調査結果を報告した。

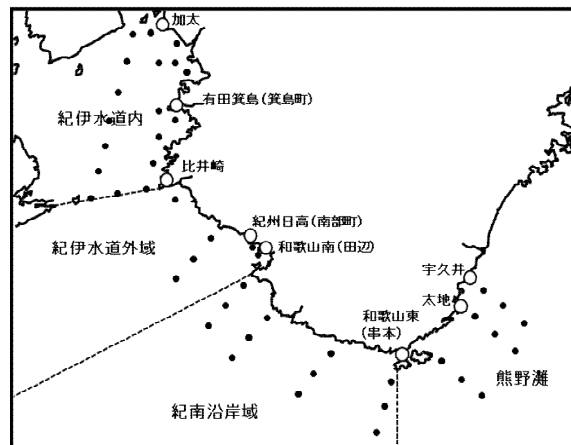
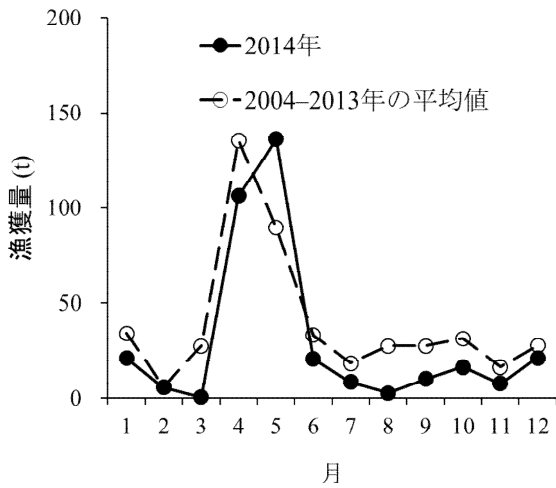
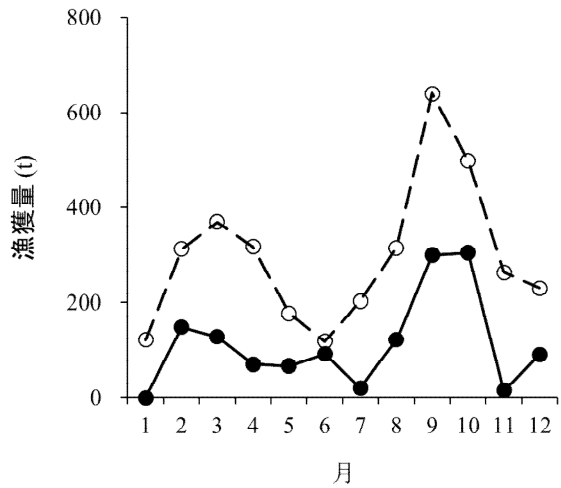


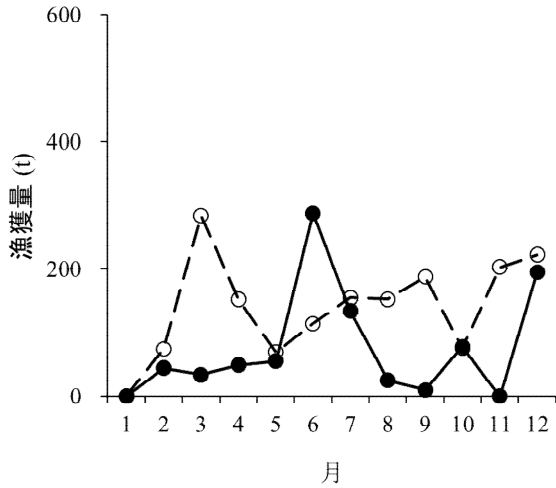
図1 主な調査市場（○）と海洋観測調査定点（●）



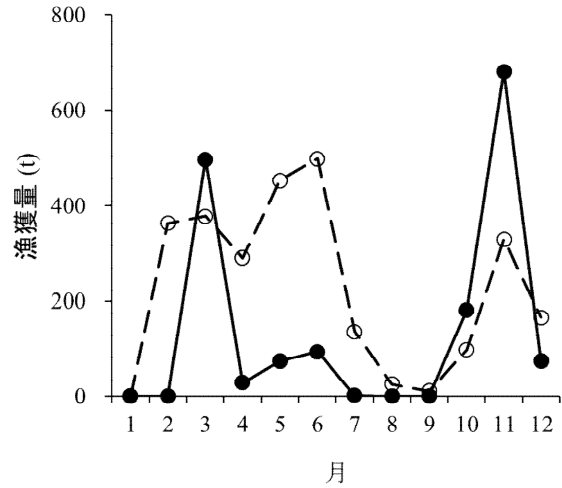
紀伊水道内標本2市場の船びき網によるシラス漁獲量



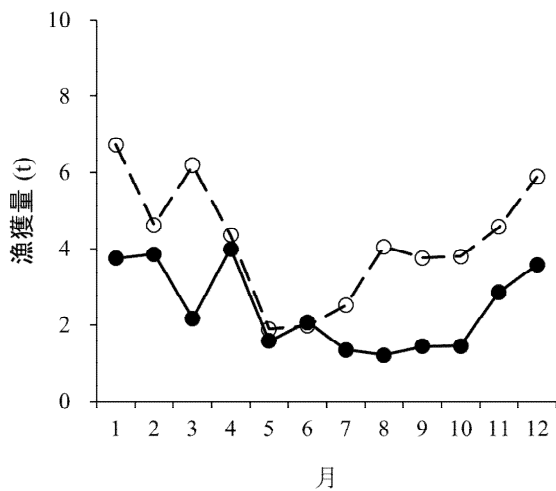
紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場の2そうまき網によるサバ類漁獲量



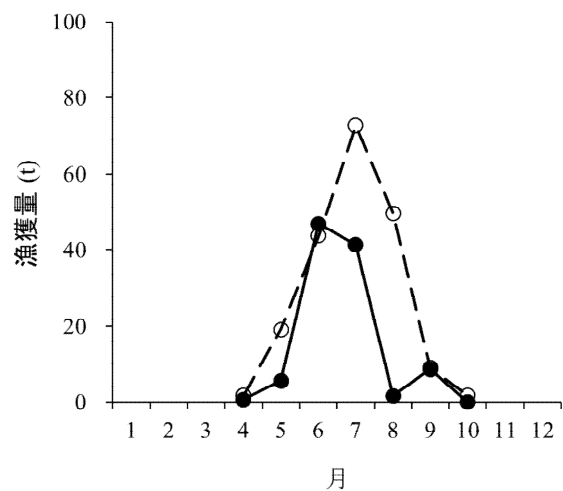
紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場の2そうまき網によるマアジ漁獲量



紀伊水道内および紀伊水道外域標本3市場の2そうまき網によるマルアジ漁獲量



紀伊水道内標本1市場の一本釣りによるマダイ漁獲量



紀伊水道外域標本1市場の棒受網によるウルメイワシ漁獲量

図2 主要魚種の月別漁獲量